

# レポート・論文作成時における注意

神戸大学経済学部・大学院経済学研究科

大学では成績評価の対象として、レポートや論文を提出することが頻繁に求められます。研究活動は、専門書籍、学術論文等を調べ、様々な知識や情報を吸収することから始まります。それらの内容を自分で整理して、自分自身のアイデアを含めて考察・検討したことをレポートや論文に書きます。

そこで重要なのは、レポートや論文では、「文献資料やインターネット上の資料を調べて得た知識・情報（先行研究）」と、「自分自身のアイデア」とは明確に区別しなければならない、ということです。もし、それらを「引用」または「参考にする」場合、その情報源を明示しなければなりません。

先行研究から引用・参考にすることは、自らの考察力を高める上で不可欠であり、同時に、それらを明記することで、これまで知を蓄積した先人の学問的貢献に敬意を表する意味もあります。先行研究と自分の考えとをはっきりと区別するためにも、レポートや論文では自分自身のことを「筆者」と書きましょう。筆者すなわちあなたが発見した知見でない事柄については、「引用」または「参照箇所」として、その出所・出典を明記してください。

この引用の方法には、はっきりとしたルールがあります。しかし、このルールを守らずに、不適切な方法で他人の貢献を利用すると「剽窃」（ひょうせつ）とみなされることがあります。これは試験におけるカンニングと同様に不正行為とみなされ、同等の処分を受けることとなります。以下の注意事項を熟読・理解の上、基本ルールを守って、真摯な姿勢でレポートを作成してください。

## I. 「剽窃」とみなされる行為

- 書籍・論文などに掲載されている他人の文章を、たとえ一部分でも出典を明示せずに、自分のレポート・論文に転載すること。
- 他人が作成した文章に、自分の名前を記して提出すること。たとえ文章の細部や文体を多少変更しても、剽窃行為とみなされます。（例えばインターネットのウェブサイトをコピー&ペーストしてレポートを作成することは剽窃です）。
- 枚数を稼ぐ目的での、過度の分量の引用・参照。

## II. 正しい引用方法

### (1) 注釈（脚注）のつけ方

表示方法はいくつかありますが、一般的には、注釈（脚注）に通し番号を付して、各章の末尾でその番号に対応する「出典（文献資料名）と、そのページ番号」を明記する方法です。本文中の注釈番号は、上付小文字で表示します。引用・参照にかんする注釈（脚注）は、そのすべてを厳密に表示してください。

\* 文章の引用箇所は、引用した部分全体を「 」でくくること。また、文章をそのまま引用したのではなく、内容を要約するなど参考にした場合も、出典を明記すること。

\* 図表やデータを掲載する際、筆者自身がそれらを収集集計したのではなく、別の著者が収集集計したものを間接的に引用する場合は、必ずその著書・論文名等を明記する。ただし、これはあまり奨励されないことであり、元データから自分で図表を作成する方が望ましい。

例

… 19世紀までの戦争の特徴として、小野塚（2018）によると「武器や先述の変化はあったものの、ほとんどの場合、戦闘状態は数日か一週間程度」<sup>(1)</sup>であったという…

(1) 小野塚（2018）456 ページ。

引用した部分全体を「 」でくくり、脚注で出典を明記してください。

### (2) 引用・参考文献の表記方法

典拠となる文献資料は、さまざまな形態のものがありますが、おおよそ単行本（専門書、翻訳書、資料統計類）と専門誌に掲載された学術論文に分けられます。それぞれについて、おおよそ以下のような形式で表記してください。下にいくつか例を挙げました。文献資料の表示方法の最低限のルールは、注釈を見た人が図書館等で検索できるように正確かつ十分な情報を提供していることです。参考文献の表記方法には様々なスタイルがありますので、各科目やゼミの担当教員に尋ねるのもいいでしょう。

#### 参考文献

- 小野塚知二（2018）『経済史－いまを知り、未来を生きるために』、有斐閣。
- R. C. アレン著／眞嶋史叙ほか訳（2017）『世界史の中野産業革命－資源・人的資本・グローバル経済』、名古屋大学出版会。
- 三科仁伸（2018）「戦前期における地方資産家の企業経営と有価証券投資」、『社会経済史学』第83巻第4号、35-62ページ。
- 綿貫友子（2017）「中世の交易」、深尾京司・中村尚史・中林真幸編『日本経済の歴史1 中世11世紀から16世紀後半』、岩波書店。

書籍

翻訳書

雑誌論文

論文集として  
出版された単  
行本中の論文

#### ※インターネット情報の利用と引用した場合の表示について

昨今、インターネットから情報やデータを抽出しているレポートが多々見受けられます。出典がウェブサイトの場合は、「著者名、タイトル、URL、最終閲覧日」【例：〇〇〇著「△△△」，<http://www.xx.jp>，20××年〇月△日閲覧】を明記しなければなりません。ただし、引用だけで、何の検討も考察もないレポートは、出典が書いてあったとしても定期試験でのカンニングと同じ処分を受ける場合があります。なお、ネット系情報リソースのなかには、しばしば典拠が曖昧であったり、正確性・客観性を欠いたりするものがあるので、ネットからの引用にあたっては慎重さが求められます。特に Wikipedia 等、匿名の人たちが情報を寄せ集めているサイトの記事は、その信憑性に問題があり、レポートの参考文献として適切ではないことに注意しましょう。

\* さらに理解を深めるために、本学附属図書館によるレポートの書き方を参照してください。

神戸大学附属図書館「レポートってどう書くの？」

<https://lib.kobe-u.ac.jp/media/sites/3/img-writingseminar-201701.pdf>（2018年3月8日閲覧）